



日本の健康長寿県構想

県民が健やかで心豊かに、支え合いながら生き生きと暮らすために

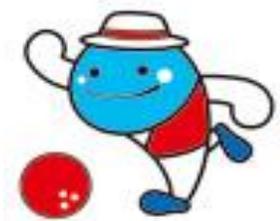


平成27年度第1回中国・四国ブロックエイズ治療拠点病院等連絡協議会
2015年8月21日

高知県における診療連携について



高知県健康政策部 健康対策課 福永一郎



健康対策課 ★ オリジナルキャラクター

《母子保健》



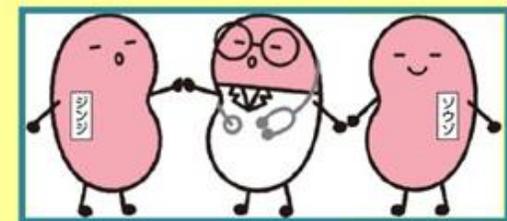
けんしん王子くん けんしんプリンセスちゃん

《がん対策》



けん しん太郎くん

《CKD（慢性腎臓病）対策》



ジンジ そらまめ先生 ソウゾ

略 歴 福永一郎(ふくなが・いちろう)

1961年広島県呉市生まれ、中学、高校、予備校時代に広島市内へ通う

1987年岡山大学医学部卒業、臨床従事

1990年香川医科大学助手(衛生・公衆衛生学)

1993年香川県庁(県下保健所等勤務)

1999年香川医科大学助教授(衛生・公衆衛生学)

2003年保健計画総合研究所 所長(中間法人)

有限会社HK代表取締役社長

財団法人正光会今治病院医師

2009年財団法人正光会医監・精神衛生研究所副所長・同宇和島病院専属産業医・医師

2009年12月高知県庁 須崎福祉保健所保健監(保健所長)

2012年高知県健康対策課長

現在 健康対策課長、衛生研究所副参事、療育福祉センター高知ギルバーク発達神経精神医学センター副参事、地方職員共済組合高知診療所(県庁内診療所)医師

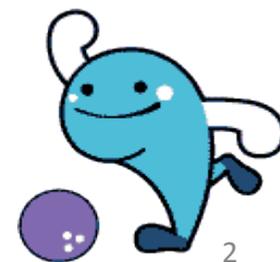
医師、医学博士。日本公衆衛生学会認定公衆衛生専門家

高知大学医学部臨床教授

日本公衆衛生学会評議員、日本衛生学会評議員

日本温泉気候物理医学会温泉療法医

日本医師会認定産業医、難病指定医



HIV/AIDSとのかかわり

- 1991～1992年 香川医科大学でHIV対策の講義を担当
1993～1998年 香川県下の保健所でHIV相談検査に従事
1995年 カウンセリング研修受講、国立公衆衛生院研修受講
1995年 NiftyServe エイズフォーラム「fAIDS」スタッフに就任（～2000年）
1996年 ライフ・エイズ・プロジェクト機関誌 LAP Newsletterに
エッセイを連載（～2005年）
1996～1999年 香川県多度津町エイズ教育(性教育)推進委員会委員
（香川県教育委員会モデル事業）
1999～2003年 香川医科大学でHIV対策の講義を担当
1999～2002年 香川県飯山町エイズ教育(性教育)推進委員会委員
（香川県教育委員会モデル事業）
2002～2005年 香川県豊中町エイズ教育(性教育)推進委員会委員
（香川県教育委員会モデル事業）
2005～2009年 長いブランク(浦島太郎に)

- 2009～2012年 高知県須崎福祉保健所でHIV相談検査に従事
2012～現在 高知県健康対策課でHIV/AIDS対策に従事

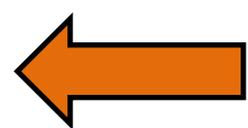
HIV/AIDS関係の発表、著作など(一部)

- ・福永一郎, 高田昇, 伊勢和宏, 白坂真男: 市民レベルで参加可能であった効果的AIDS普及啓発活動の一経験 エイズフォーラム~オンラインネットワーク上における資料供覧, 配布の試み. 四国公衆衛生学会雑誌 40(1) 238-244 1995
- ・福永一郎, 小笠原民子, 武田真智子, 高橋祥子, 吉本恭子, 関幸江, 小林京子, 宮田順子, 実成文彦: 地方におけるエイズ啓発活動に関する実践的検討 香川県多度津町での一経験より. 四国公衆衛生学会雑誌 43(1) 156-163 1998
- ・福永一郎, 山口一郎, 伊勢和宏, 高田昇, 白坂真男, 實成文彦: エイズ教育に関する意識調査. 1998.12.1 第12回日本エイズ学会抄録集.



感染予防には「不特定多数のセックスを避ける」とした群より、「愛があっても感染するのでパートナーとの対話が重要」とした群の方がエイズ教育に対して肯定的・積極的な傾向にあった。

・LAP Newsletterのエッセイは本になりました。



HIV感染治療拒否

偏見・情報不足が背景

県内の歯科診療所

県内に住むエイズウイルス（HIV）感染者が、感染を理由に歯の治療を拒否されていたことが分かった。医師らの偏見や情報不足が背景にあるとして、エイズ治療の中核拠点となっている高知大学医学部付属病院が適正な対応を呼びかけている。

高知大医学部病院「適正な対応を」

付属病院によると、この感染者は昨年10月、かかりつけだった歯科診療所でHIVに感染していることを伝えた。すると、歯科医師は「治療していることが外に知られる可能性があるので」と話し、以後の治療を拒否したという。この感染者は現在、付属病院で治療を受けている。

付属病院によると、この感染者は昨年10月、かかりつけだった歯科診療所でHIVに感染していることを伝えた。すると、歯科医師は「治療していることが外に知られる可能性があるので」と話し、以後の治療を拒否したという。この感染者は現在、付属病院で治療を受けている。

4割「患者受けたくない」

エイズ患者やHIV感染者の治療を拒否する動きは全国でも問題になっている。厚生労働省の研究班が歯科医932人を対象に実施したアンケート（2005年）によると、回答した306施設のうち、約4割にあたる125施設が「HIV感染者の紹介患者を受けたくない」と答えた。理由は「感染予防策に自信がない」が最多で31%、「他の患者に不安、動揺を与える」が26%と続いた。

一方、診療拒否を恐れたり、感染を知られたくないといった理由から、

トワークを作り、情報を共有していくという。

厚生労働省のエイズ動向委員会によると、県内のエイズ患者は16人、発症していないHIV感染者は30人いる。

H26. 5. 8 朝日新聞 朝刊

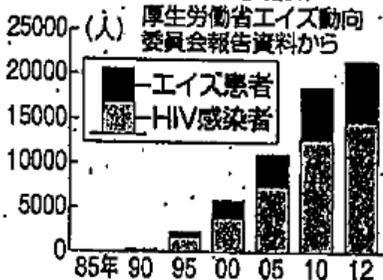
と、各都道府県に拠点病院を設けている。

現在は全国に3000の拠点病院と50の中核拠点病院があり、県内では高知医療センターなど四つが拠点病院に、高知大学医学部付属病院が中核拠点病院に指定されている。

事態を受けて付属病院は、県歯科医師会に対応を要請。今年1月に同会主催の講習会で感染症の予防策を講じた。

厚生労働省の疾病対策課の北原加奈子課長補佐は「HIVは怖い病気だとい

HIV感染者とエイズ患者数
厚生労働省エイズ動向委員会報告資料から



高知大学医学部付属病院の山本哲也・歯科口腔外科長は「感染の事実を告知しないのは患者、医療機関双方にとって損失。出血があった時の対応が遅れ、診療リスクを高める」と話す。

厚生労働省はエイズ治療の受け皿を確実に作るう

平成26年5月4日
高知新聞朝刊

県内診療所

HIV 歯科治療拒否

陽性者に「外に知れる」

県内で暮らすエイズウイルス(HIV)陽性者が昨年、歯科診療所で受診した際に感染の事実を告げたところ、歯科医師からその後の診療を断られていたことが関係者への取材で分かった。歯科で標準とされる感染症対策を行ってれば、一般診療所でも陽性者やエイズ患者を安全に治療で

きるが、医療側の知識不足や偏見などから断るケースが全国的に相次いでいる。県内のエイズ治療の中核を担う高知大学医学部付属病院によると、県内での診療拒否は「把握している限り初めて」。「あつてはならないこと」とし、歯科医師らに対応を呼び掛けている。(29面に関連記事)

この陽性者は数年前に感染が分かり、同大病院に通院。現在は薬が効き、「感染前と同じように働いている」という。ウイルスの状態が落ち着いた昨秋、感染が分かる前からかかりつけだった歯科診療所で初めて受診。歯科医師に感染していることを明かした。

すると、歯科医師は簡単な処置の後、その場で「(ここで治療を続けると)外に知れる可能性があるので、次からは医大(高知大)で治療を受けてください」と告げた。歯科医師は症状を尋ねたり、同大病院に問い合わせることはなく、この陽性者は偏見による門前払いのように感じた

HIV対策

感染症

健康対策課

医事薬務課

医療安全、院内感染

(ただし針刺し事故対応は、
HIVだけが健康対策課)

歯科

健康長寿政策課

医療政策課

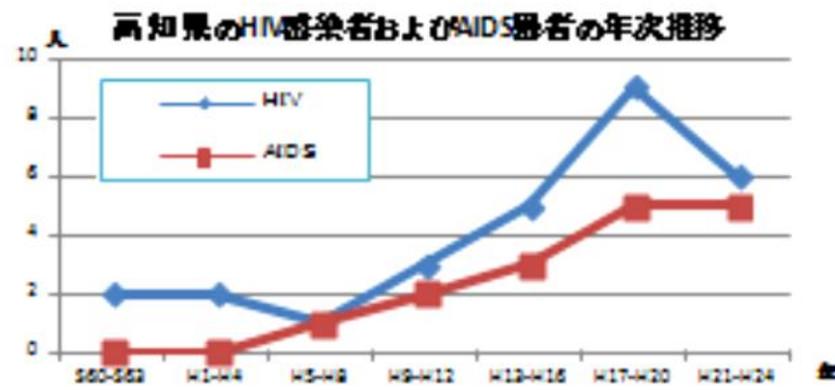
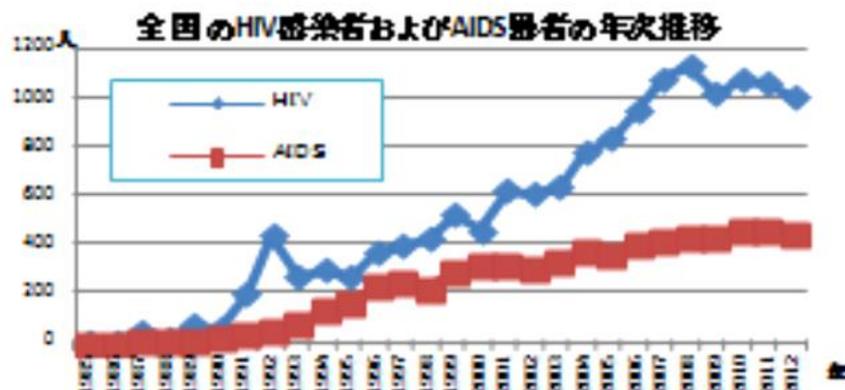
医療提供体制

いわゆる
縦割り行政...

- ・きわめてスピード感が高く、感染症対策の専門的な対応が必要
 - ・歯科だけの問題でもない
- 主に対応する課が、歯科保健を担当する課から、健康対策課へ移る

◆HIV感染者・AIDS患者の状況

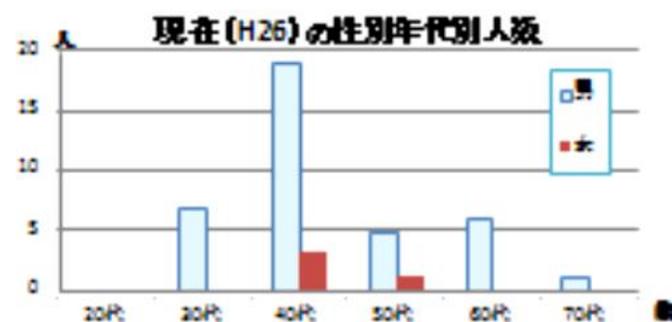
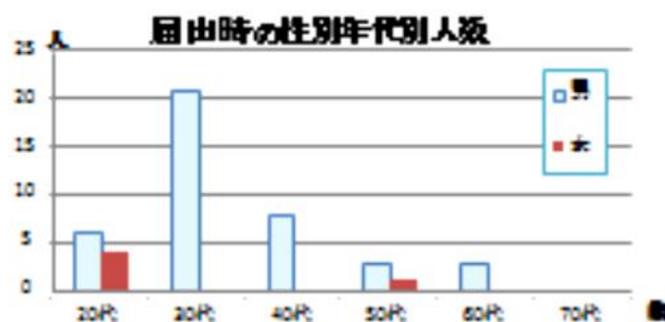
○HIV感染者・AIDS患者の新規届出者は20-30歳代が70%を占め、依然増加傾向。



○治療の進歩により通常の社会生活を送るHIV感染者・AIDS患者が大半に。

HIV感染症は、治療の進歩により、「特別な病院で治療が必要な死にいたる病」から『身近な施設で治療ができる慢性疾患』に変化。

患者の高齢化



◆治療の状況

- HIV感染症は抗ウイルス薬の進歩で、予後が大きく改善。
ただし、完治するわけではなく、薬を飲み続けることが必要。
- 通院頻度が高い診療科の診療は一般医療機関の活用の要望が強い。
慢性疾患治療となったことで、遠距離の拠点病院への通院が負担となることから、歯科、皮膚科、耳鼻科等の通院頻度の高い診療科は、自宅近辺の一般医療機関での診療の要望が強くなっている。



医療連携体制の構築が必要 → 高知県では十分ではない。
(全国的に、歯科以外の連携方法は整理が出来ていない)

- これから求められる医療・介護体制
高齢化社会は、HIV感染者・AIDS患者も同じ。



今までの対応

○患者対応

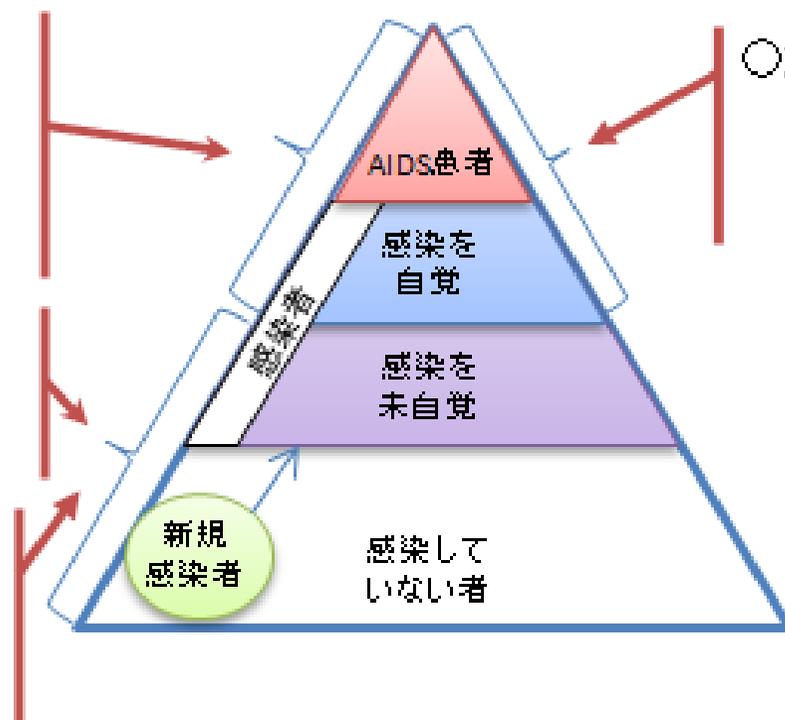
- ・エイズに関する教育
- ・就労支援
- ・介護職員への研修
- ・針刺し時の予防薬備蓄

○早期発見

- ・福祉保健所での無料検査の実施

○感染予防

- ・TVCM、ポスター、チラシ等による予防啓発
- ・学校等での啓発



○治療体制の構築

- ・中核拠点病院(1ヶ所)拠点病院(4ヶ所)の指定
- ・拠点病院間の連携体制構築

●未対応

- ・日常診療のための連携体制
- ・感染未自覚者への対応

●未対応

- ・日常診療のための連携体制
- ・感染未自覚者への対応



今後必要な対応

- 
- 日常診療に関する診療連携体制の構築
 - ・ 患者の拠点病院以外での診療状況の整理
 - ・ 診療連携をするうえで一般医療機関に必要な機能(条件)等の整理
 - ・ 各地域に必要な医療機関の必要数の整理
 - ・ 診療連携のためのツール(様式等)の作成
 - 一般医療機関等への研修の実施
 - ・ 最新のエイズ治療についての周知
 - ・ エイズ、HIV感染者への診療において必要な知識及び技術の習得

高知県と高知大学との間で委託契約締結！

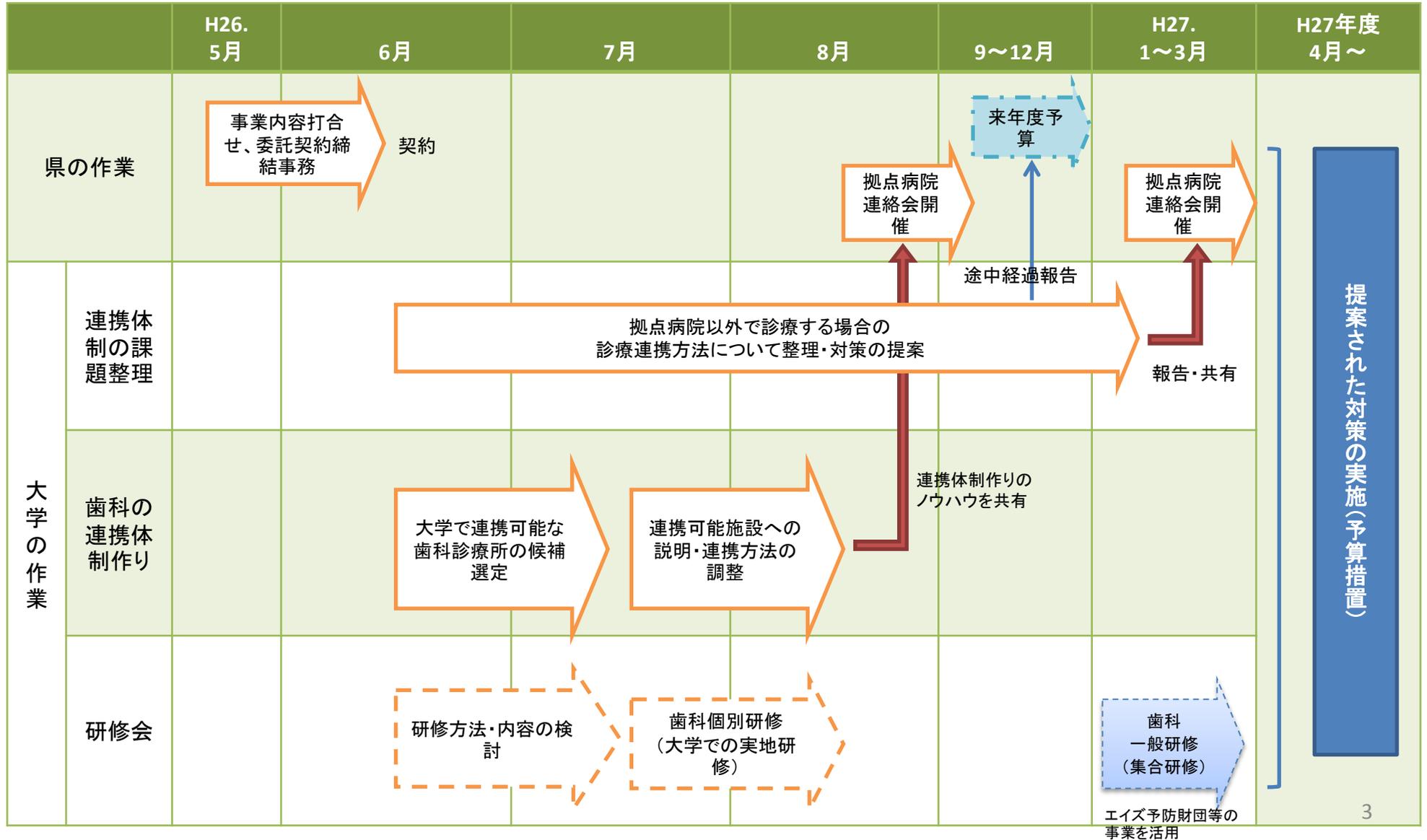
HIV診療連携体制強化推進事業

委託内容

- 1 地域においてHIV感染者等に対する日常の歯科診療を行うために必要な条件やその条件を満たし、協力の得られる歯科診療所(以下「協力医療機関」)の必要数等を整理して、エイズ治療拠点病院を核とした診療連携体制について提案する
- 2 エイズ診療治療拠点病院及び協力医療機関への報告及び支援
- 3 歯科診療における協力医療機関に対する研修会の実施

HIV診療連携体制強化推進事業

スケジュール(案)



HIV歯科治療で連携

高知大病院 県内13施設受け入れ

エイズウイルス（HIV）に感染した陽性者やエイズ患者の歯科治療を、地域の歯科医療機関で受け入れる診療連携体制がこのほど、県内で初めて整った。昨年、県内の歯科診療所で感染を理由にした治療拒否が起きたことを機に、13市町の13施設が参加して構築。感染症対策の研修を受けた歯科医師らが、高知大学医学部付属病院から紹介された陽性者らの治療に当たる。

（門田朋三）



マスクや手袋の着け方などを学んだ感染症対策研修会

（南国市の高知大学医学部付属病院）

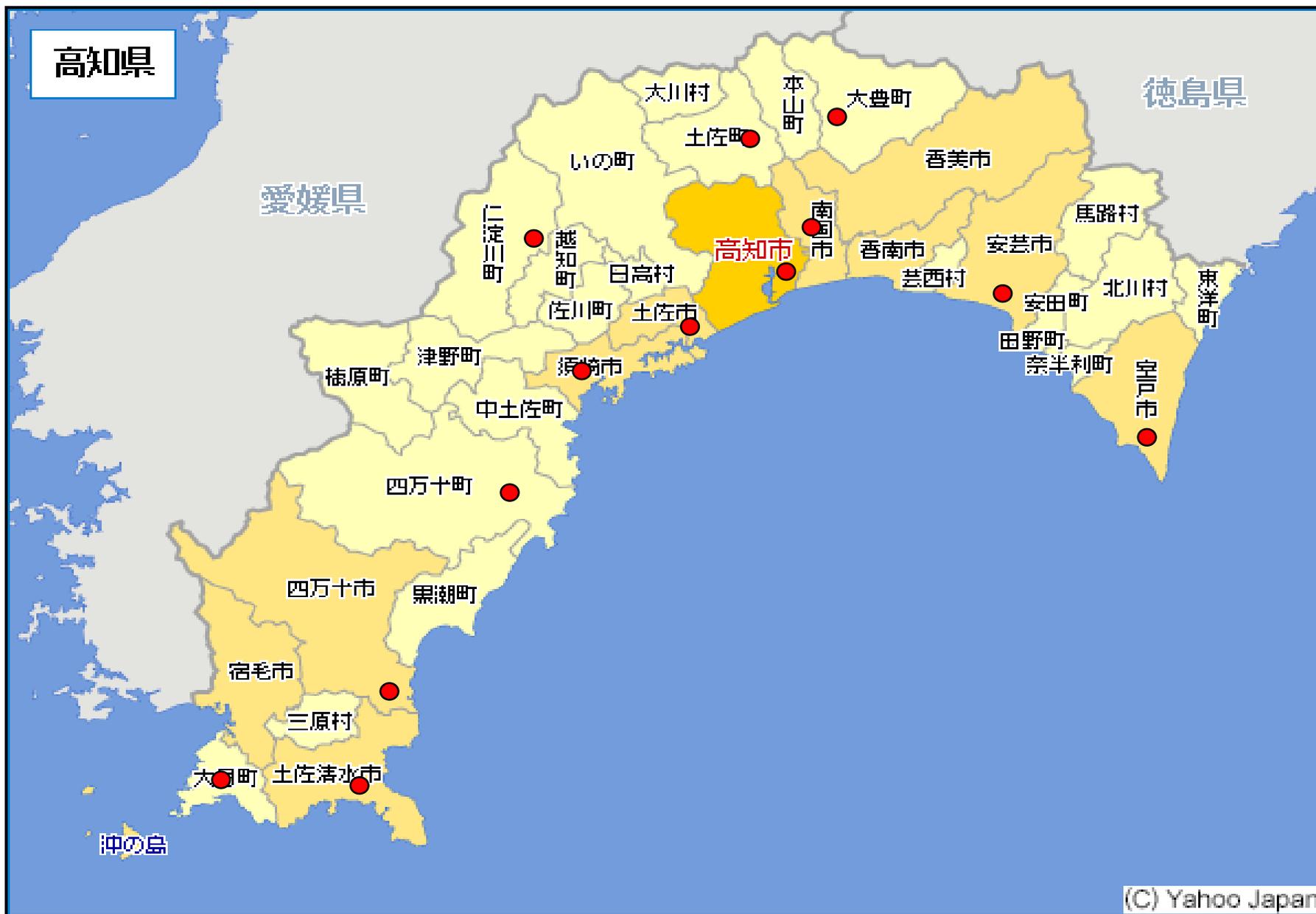
エイズは「後天性免疫不全症候群」のこと。HIVに感染後、体の抵抗力が落ちて日和見感染症などを発症すると、エイズと診断される。県内では40人余りの陽性者や患者が暮らしている。

現在ではウイルスをコントロールする薬があり、非感染者とほぼ変わらない生活を送れるようになったが、偏見は根強い。歯科では標準の感染症対策を行えば一般診療所でも安全に治療できるが、医療側の知識不足や偏見から治療を拒否したり、陽性者や患者が感染の事実を告げないまま受診したりするケースが全国で相次いでいる。

県内の診療連携体制は、県から委託された同大病院が県歯科医師会会員の協力を得て構築した。陽性者や患者に歯科治療が必要になった際、身近な地域での治療を望めば、該当する施設を同病院が紹介。症状やウイルスの状態を伝え、診療に役立ててもらおう。

同大でこのほど開かれた研修会には、協力施設を含む歯科医療機関の歯科医師や歯科衛生士ら約100人が参加。広島大学大学院の栗原英見教授らが講演し、HIVの基礎知識や歯科治療の現状を紹介。「医療安全は医療者の社会的責任。口腔（こうくう）感染症の専門家として、医科との連携に取り組んでほしい」と呼び掛けた。マ

高知県HIV陽性者歯科医療ネットワーク登録歯科医療機関（13施設）



高知県における
HIV 感染症・AIDS 診療に係る
歯科医療連携の手引き

高知大学医学部附属病院
(平成 26 年度歯科医療安全管理体制推進特別事業 (HIV 関係))

平成 27 年 3 月

目 次

- I. 「HIV 感染症・AIDS 診療に係る歯科診療連携」の概要
 - 1. 目的
 - 2. 連携歯科診療所
 - 3. 対象患者
 - 4. 連携の内容

- II. 医療連携の流れ
 - 1. 歯科医療連携の流れ
 - 2. 歯科治療・対応における注意点

- III. その他
 - HIV 感染症歯科治療マニュアルについて

- * 資料 1
歯科診療情報提供書

【エイズ治療中核拠点病院から紹介する場合】

エイズ治療中核拠点病院（高知大学医学部附属病院）



患者に登録された地域の歯科診療所を紹介（事前に連絡・必要時は予約）



情報提供書を作成

*患者には必ず情報提供書を持参するように説明する



患者は紹介された地域の歯科診療所を受診

*患者が受診したことを紹介元に連絡すること

連携に協力される歯科診療所の登録名簿は、原則としてエイズ治療中核拠点病院である高知大学医学部附属病院で管理をする

【エイズ治療拠点病院から紹介する場合】

エイズ治療拠点病院

(高知医療センター、国立高知病院、幡多けんみん病院、あき総合病院)



エイズ治療中核拠点病院（高知大学医学部附属病院）より
歯科医療連携に登録されている歯科診療所を確認



患者に登録された地域の歯科診療所を紹介（事前に連絡・必要時は予約）



情報提供書を作成

*患者には必ず情報提供書を持参するように説明する



患者は紹介された地域の歯科診療所を受診

*患者が受診したことを紹介元に連絡すること

HIV感染理由に拒否

高知の病院 かげの受診を

エイズウイルス(HIV)感染者が5月、高知市内の病院で内科を受診しようとしたところ、感染を理由に断られたことが、エイズ治療の中核を担う高知大学医学部付属病院への取材で明らかになった。県内では昨秋、別の感染者が同様の理由で、歯科診療所の受診を拒まれている。県は、医療従事者の啓発に乗り出した。

県、医療機関の啓発強める

高知大学医学部付属病院(南国市)によると、高知市の病院で5月、風邪をひいて内科を受診しようとしたHIV感染者が「エイズなら高知大の付属病院で治療を」と窓口で言われ、受診をあきらめた。昨秋は、別のHIV感染者が、かかりつけの歯科診療所で感染を告げたところ、歯科医師は「外に知られる可能性があるあるので」と以後の治療を

断ったという。歯科診療所の風評を意識した発言とみている。

エイズ治療については、厚生労働省(旧厚生省)が1993年、各都道府県に拠点病院を2カ所以上選定するよう求め、県内では5病院が指定されている。県内のHIV感染者の大半が高知大学医学部付属病院の外で治療を受けている。同病院エイズ治療対策子

ーム代表の武内世生(せせい)医師は「薬の進歩で今は一般人と同じような生活を送っている患者が多い。エイズに直接関係のない病気が身近な医療機関で受診したいというニーズは強い」と話す。エイズウイルスはB型肝炎などと比べると感染力が弱く、通常の対策をとれば感染のリスクは抑えられるという。

県健康対策課は今年度、歯科の分野で受け入れ先となる医療機関のリストを作成した。要望があれば、患者に提供する。9月には、受け入れ先に決まった県内の13歯科診療所に、高知大医学部付属病院が医療用器具の取り扱いや汚染物の処理、汚染事故時の対処方法を伝えた。来年1月には、

歯科医師や歯科衛生士が感染予防を学ぶ講習会を開く。来年度以降は、歯科以外の分野でも同様の取り組みを進める方針だ。

健康対策課の宮地洋雄(ひろゆき)は「HIV感染者が、これまでに明らかになっか内科や歯科だけでなく、ほかの診療科でも不快な思いをしている可能性がある。医療従事者に正しい知識を得てもらおう取り組みを進めたい」と話している。

日常では感染せず

HIVは感染者の精液や血液が相手の体内に入ることで感染し、HIVの増殖で免疫力が低下するとエイズを発症する。くしゃみやコップの回し飲みといった日常生活では感染しない。厚生労働省エイズ動向委員会によると、2013年末時点でHIV感染者とエイズ患者は計約2万人。県内の医療機関を通じて報告があったHIV感染者とエイズ患者は計50人いる。

(西村泰緒美)

平成26年度 高知県医師会H I V医療講習会のご案内

謹啓

時下、先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、下記の日程におきまして標記講習会を開催させて頂く運びとなりました。
つきましては、お手数ではございますが、ご出席を希望されます方は下記にご記入の上、
2月23日（月）までにFAXまたはメールにてご返送下さいますようお願い申し上げます。

謹白

日時

2015年2月28日（土）14:00～16:30

会場

総合あんしんセンター 3階「大会議室」
高知市丸ノ内1丁目7番45号 TEL088-824-8366

講演Ⅰ

「高知県におけるH I V診療の現状」

高知大学医学部 総合診療部

准教授 **武内世生** 先生

講演Ⅱ

「H I V感染症は糖尿病の様な
慢性疾患です」

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 臨床研究センター

エイズ先端医療研究部長 **白阪琢磨** 先生

※ 日本医師会生涯教育単位（2.5単位）、カリキュラムコード1.2.9.11.12が取得出来ます。

主催：高知県医師会

0円→1,264千円

目的

HIV感染者及びエイズ患者（以下「HIV感染者等」）においては、近年の抗HIV薬の進歩により予後が大きく改善され、多くの方は、地域において通常の生活を送っている。そうした中、HIV感染者等の歯科診療を拒む事例や、拒否されることを恐れて感染の事実を明らかにできないまま近くの医療機関を受診したり、遠距離のエイズ治療拠点病院を受診している等、HIV感染者等の日常の診療において課題がある。

そのため、HIVに特異的な症状ではない診療（歯科等）については、身近な地域の医療機関で安心して医療を受けられる体制が必要となっている。

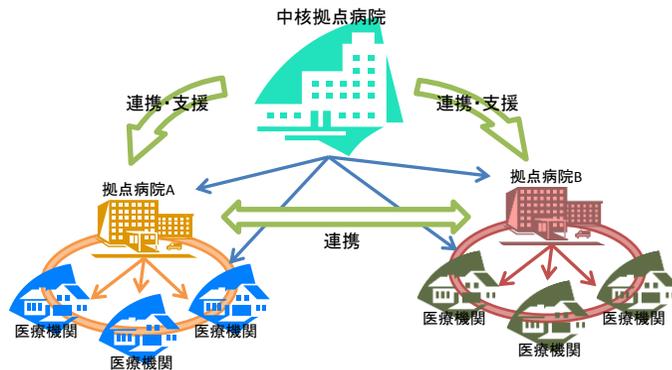
そこで、平成27年度は、平成26年度に引き続き、歯科診療に関する診療連携体制を強化し、協力医療機関の数を増やすとともに研修及び拠点病院間で共有できる資料の作成を行う。そして、平成27年度からは、ホスピス・透析の診療科の連携についての整理を行い、協力医療機関への研修等の人材育成を行う。

HIV
感染者等

● 現状 日常診療に関する診療連携体制が十分ではない。特に歯科診療の連携体制構築が急務。

対応

●エイズ拠点病院を中心とした診療連携体制を構築



患者・感染者の利便性を第一に考え、診療所等で土曜日や夕方の診療が受けられる方策も検討

○連携に必要な医療機関の条件等を整理
 ・県内各地域において必要な医療機関の条件や必要数等
 ・ネットワークを構築する上での拠点病院の体制等
 ・医療連携を行う際に活用する様式等
 ・医療連携に関する手引き等

○拠点病院及び医療機関の連携体制の構築
 ・各拠点病院への説明（拠点病院ごとに体制を整備）

○研修の実施
 ・HIV感染症等の診療の基本的事項や専門的知識及び技術を習得するための研修会の実施
 （他に活用できる事業を用いたり既存の他の目的の研修に項目を追加等での対応も可）

中核拠点病院に委託して実施

※平成27年度は、引き続き、歯科診療について実施。そして、平成27年度からは透析、ホスピスについても連携体制を構築する。

対応後は…

・拠点病院において、近医での診療を希望する患者に対し、紹介できる医療機関情報を提供。
 ・紹介先の医療機関を受診する際は、拠点病院で診療情報提供書を作成し送付。
 （間に合わない場合は、拠点病院から医療機関に連絡を入れる）

HIV以外
の診療等

歯科治療

その他の診療

ホスピス・
透析
1

エイズ診療拠点病院（県内5か所）

目的

HIV感染者及びエイズ患者(以下「HIV感染者等」)においては、近年の抗HIV薬の進歩により予後が大きく改善され、多くの方は、地域において通常の生活を送っている。そうした中、HIV感染者等の歯科診療を拒む事例や、拒否されることを恐れて感染の事実を明らかにできないまま近くの医療機関に受診したり、遠距離のエイズ治療拠点病院を受診している等、HIV感染者等の日常の診療において課題がある。

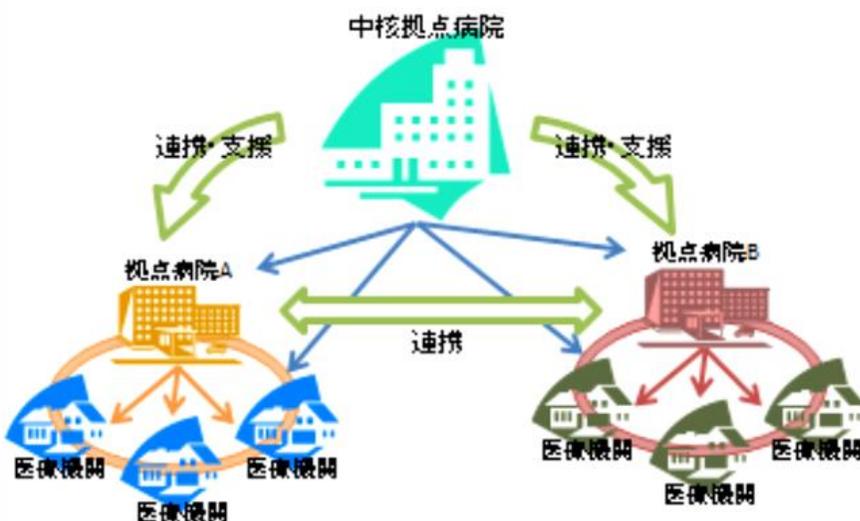
そのため、HIVに特異的な症状ではない診療(歯科等)については、身近な地域の医療機関で安心して医療を受けられる体制が必要となっている。

そこで、平成27年度は、平成26年度に引き続き、歯科診療に関する診療連携体制を強化し、協力医療機関の数を増やすとともに研修及び拠点病院間で共有できる資料の作成を行う。そして、平成27年度からは、ホスピス・透析の診療科の連携についての整理を行い、協力医療機関への研修等の人材育成を行う。

- 現状 日常診療に関する診療連携体制が十分ではない。特に歯科診療の連携体制構築が急務。

対応

●エイズ拠点病院を中心とした診療連携体制を構築



患者・感染者の利便性を第一に考え、診療所等で土曜日や夕方の診療が受けられる方策も検討

○連携に必要な医療機関の条件等を整理

- ・県内各地域において必要な医療機関の条件や必要数等
- ・ネットワークを構築する上での拠点病院の体制等
- ・医療連携を行う際に活用する様式等
- ・医療連携に関する手引き等

○拠点病院及び医療機関の連携体制の構築

- ・各拠点病院への説明(拠点病院ごとに体制を整備)

○研修の実施

- ・HIV感染症等の診療の基本的事項や専門的知識及び技術を習得するための研修会の実施
(他に活用できる事業を用いたり既存の他の目的の研修に項目を追加等での対応も可)

中核拠点病院に委託して実施

※平成27年度は、引き続き、歯科診療について実施。そして、平成27年度からは透析、ホスピスについても連携体制を構築する。

対応後は…

- ・拠点病院において、近医での診療を希望する患者に対し、紹介できる医療機関情報を提供。
- ・紹介先の医療機関を受診する際は、拠点病院で診療情報提供書を作成し送付。
(間に合わない場合は、拠点病院から医療機関に連絡を入れる)

理想

身近な医療行為(看護、介護を含む)は身近で受けることができる。

感染防止については、スタンダードプリコーションであれば、どの医療機関でも診療できる。

その技術水準は、医事制度上、一般診療レベルで求められている(感染に対応できない、は、すべて「言い訳」である)。

現実の問題

実態として、日常的な疾病や状態に対する診療体制が確保されていない。診療(ケア)を確保しなければならない。

→ 高知県HIV陽性者歯科医療ネットワーク
透析、緩和ケア、介護etc・・・

これは始まりであって、終わりではない。

よくきかれる「おことわり」の理由

診療経験がない
専門診療に任せるべき

職員の技術水準(感染防止)に自信がない
職員の守秘に自信がない
職員を説得できない

何かあったら責任を問われる(医事紛争、労災)

少なくとも、表立って偏見的な理由をあげられることは少ない
が...

過去から変わっていない？かもしれない問題

君子危うきに近寄らず、他人ごと意識、自業自得論
いろいろな差別と偏見、医療者が人を「裁く」・・・

一般県民の意識は？

比較的若い人たちは、HIV/AIDSを学校教育（思春期保健、人権教育）で習ってきたこともあり、話せばわかってくれるかも。

しかし、多くの医療機関が診療対象にしているのは高齢者層であり、意識の訂正は非常に難しい・・・のが実際である。

だが、一般県民の意識が変わらないと、日常的に対応する医療従事者の対応（経営者の気持ちとして「風評被害が怖い」もあり）を変えることは難しい・・・

それでも、関係者の地道な努力が実って、少しずつ変化・・・

例) 肝炎：検査のPRができるようになった。



7.28は日本肝炎デー

10月19日(日) 9:30~15:00

いの町健康まつり すこやかセンター伊野
吾川郡いの町1400

肝炎ウイルス検査実施

先着150名様 **無料**

※高知県内在中で、今まで一度も検査を受けたことがない方が対象です。(年齢不問)

アンケートクイズにご記入の方
もれなく健康グッズが当たる

ガラガラ抽選
にチャレンジできます!

※商品がなくなり次第、
終了とさせていただきます。

先着400名様

**バルーンアート
プレゼント**

※数に限りがございます。なくなり次第、終了とさせていただきます。



針刺し 事故発生



被曝者への基本対応

①2時間以内に



- ・予防薬の服用について医師から説明を受け、服用するか被曝者自身がきめる。
- ・医師（HIV 専門医以外でも可）の処方を受ける（1～3日分）。
- ・予防薬を被曝者が服用。

②24時間以内に

- ・患者の HIV 検査結果を確認（予防内服継続の確認）。
- ・HIV 専門医等の診察を受け、予防薬の処方を受ける。
- ・服用期間終了後に、感染の有無を確認。→感染していれば患者として治療。

患者への基本対応

①暴露時



- ・被曝者以外の職員から状況を説明。
- ・HIV 感染の有無が分からない場合は、検査を受けてもらうよう説得。
- ・検査の実施。
- ・感染していた場合は、治療につなげる（拠点病院に紹介）

・拠点病院だと、被曝者、患者ともに上記内容ですぐに対応
拠点病院以外だと

・患者が拠点病院に一緒に行ってくれた場合、上記内容で対応

・一緒に行ってくれない場合、予防薬を最後まで服用



分包化には薬事法の壁

薬事法



※患者が感染していることが事前にわかっている場合は予防薬を最後まで服用



謝辞

2014年、この歯科診療拒否問題が報道されて以降、歯科診療確保、医療連携に対して取り組むべき方向や、具体的な事例の情報など、多岐にわたり貴重なご示唆をくださいました 広島文化学園大学 高田 昇先生に深く感謝します。

また、報告の機会を与えてくださいました広島県健康対策課、中四国エイズセンター、ご指導ご助言をいただきました高知大学ほか高知県内外の関係各位に深謝申し上げます。

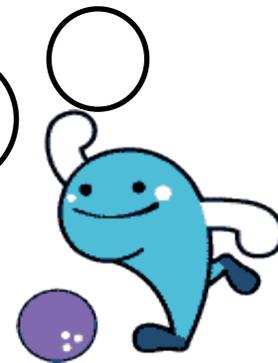


みんなあつまひりに、
スターはおらんかね？

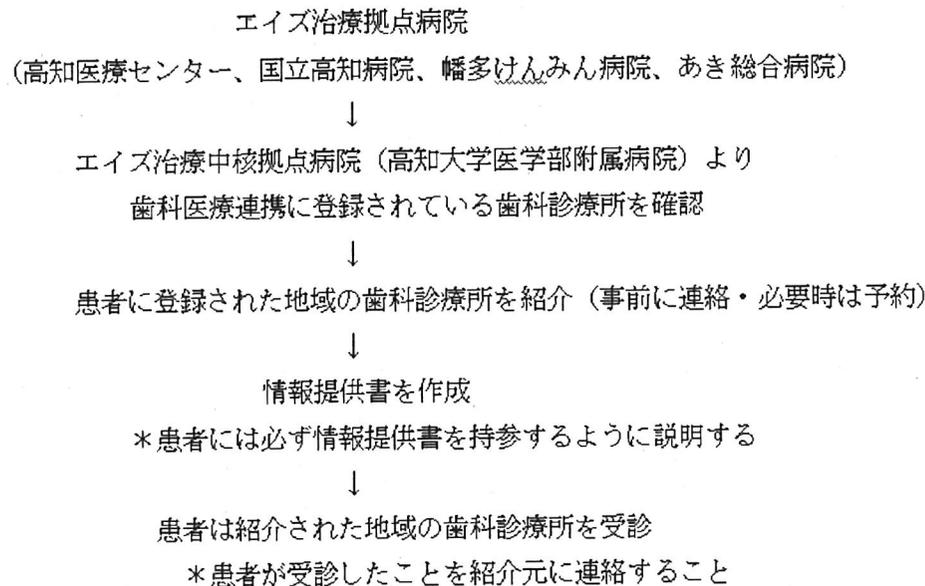
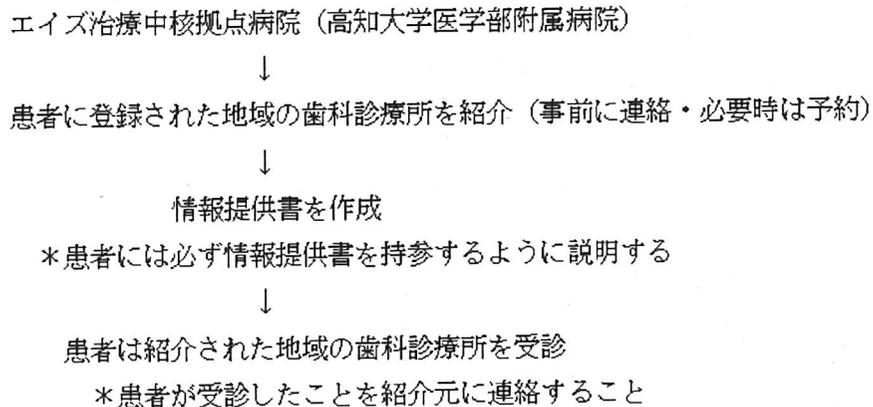
高知家の家族は、みんなあがスターやき。



ご静聴
ありがとうございます
ございました



【エイズ治療中核拠点病院から紹介する場合】



連携に協力される**歯科診療所の登録名簿**は、原則としてエイズ治療中核拠点病院である**高知大学医学部附属病院**で管理をする

H26.11.8 朝日新聞

HIV感染理由に拒否

高知の病院 かげの受診を

県 医療機関の啓発強める

エイズウイルス(HIV)感染者が5月、高知市内の病院で内科を診し、その後、感染理由を断られた。HIV感染者が「エイズ」なる高知の付属病院で治療を受けたいと願った。昨秋、別のHIV感染者が、かかりつけの歯科診療所で感染を告げた。歯科医師は「外に知られる可能性があるので」と以後の治療を拒否した。

高知大学医学部附属病院 断ったという。歯科診療所の感染理由を断った。HIV感染者が「エイズ」なる高知の付属病院で治療を受けたいと願った。昨秋、別のHIV感染者が、かかりつけの歯科診療所で感染を告げた。歯科医師は「外に知られる可能性があるので」と以後の治療を拒否した。

「エイズ治療」として、厚生労働省(旧厚生省)が1988年、各都道府県に指定した。県内では5つのHIV感染者の大半が、高知大学医学部附属病院の外で治療を受けている。同病院エイズ治療対策手

「代表者の武内世生医師は「薬の進歩は一般の人と同じような生活を送っている患者が多い。エイズは直接関係のない病気が身近な医療機関で診察したい」というニーズは強い」と話す。エイズウイルスは肝臓などにとりかかり、免疫力が弱く、適切な治療をしなければ感染のリスクは抑えられないという。県医療機関は今年度、歯科分野で受け入れ先となる医療機関のリストを作成した。要請があれば、患者に提供される。9月下旬、受け入れ先に決まった県内の13歯科診療所、高知大学医学部附属病院が医療用器具の取り扱いや汚染物の処理、汚染事故時の対処方法を伝えた。来年1月には、

エイズウイルス(HIV)感染者が5月、高知市内の病院で内科を診し、その後、感染理由を断られた。HIV感染者が「エイズ」なる高知の付属病院で治療を受けたいと願った。昨秋、別のHIV感染者が、かかりつけの歯科診療所で感染を告げた。歯科医師は「外に知られる可能性があるので」と以後の治療を拒否した。

「エイズ治療」として、厚生労働省(旧厚生省)が1988年、各都道府県に指定した。県内では5つのHIV感染者の大半が、高知大学医学部附属病院の外で治療を受けている。同病院エイズ治療対策手

「代表者の武内世生医師は「薬の進歩は一般の人と同じような生活を送っている患者が多い。エイズは直接関係のない病気が身近な医療機関で診察したい」というニーズは強い」と話す。エイズウイルスは肝臓などにとりかかり、免疫力が弱く、適切な治療をしなければ感染のリスクは抑えられないという。県医療機関は今年度、歯科分野で受け入れ先となる医療機関のリストを作成した。要請があれば、患者に提供される。9月下旬、受け入れ先に決まった県内の13歯科診療所、高知大学医学部附属病院が医療用器具の取り扱いや汚染物の処理、汚染事故時の対処方法を伝えた。来年1月には、

エイズウイルス(HIV)感染者が5月、高知市内の病院で内科を診し、その後、感染理由を断られた。HIV感染者が「エイズ」なる高知の付属病院で治療を受けたいと願った。昨秋、別のHIV感染者が、かかりつけの歯科診療所で感染を告げた。歯科医師は「外に知られる可能性があるので」と以後の治療を拒否した。

「エイズ治療」として、厚生労働省(旧厚生省)が1988年、各都道府県に指定した。県内では5つのHIV感染者の大半が、高知大学医学部附属病院の外で治療を受けている。同病院エイズ治療対策手

「代表者の武内世生医師は「薬の進歩は一般の人と同じような生活を送っている患者が多い。エイズは直接関係のない病気が身近な医療機関で診察したい」というニーズは強い」と話す。エイズウイルスは肝臓などにとりかかり、免疫力が弱く、適切な治療をしなければ感染のリスクは抑えられないという。県医療機関は今年度、歯科分野で受け入れ先となる医療機関のリストを作成した。要請があれば、患者に提供される。9月下旬、受け入れ先に決まった県内の13歯科診療所、高知大学医学部附属病院が医療用器具の取り扱いや汚染物の処理、汚染事故時の対処方法を伝えた。来年1月には、

平成26年度 高知県医師会HIV医療講習会のご案内

日時 2015年2月28日(土) 14:00~16:30

会場 総合あんしんセンター 3階「大会議室」
高知市丸の内1丁目7番45号 TEL098-824-8366

講演 I 「高知県におけるHIV診療の現状」
高知大学医学部 総合診療部
准教授 武内世生 先生

講演 II 「HIV感染症は糖尿病の様な慢性疾患です」
独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 臨床研究センター
エイズ先端医療研究部長 白阪琢磨 先生

※ 日本医師会生涯教育単位 (2.5単位) ・カリキュラムコード1.2.9.11.12が取得出来ます。
主催：高知県医師会

目的

HIV感染者及びエイズ患者(以下「HIV感染者等」)においては、近年の抗HIV薬の進歩により予後が大きく改善され、多くの方は、地域において通常の生活を送っている。そうした中、HIV感染者等の歯科診療を拒む事例や、拒否されることを恐れて感染の事実を明らかにできないまま近くの医療機関を受診したり、遠距離のエイズ治療拠点病院を受診している等、HIV感染者等の日常の診療において課題がある。

そのため、HIVに特異的な症状ではない診療(歯科等)については、身近な地域の医療機関で安心して医療を受けられる体制が必要となっている。

そこで、平成27年度は、平成26年度に引き続き、歯科診療に関する診療連携体制を強化し、協力医療機関の数を増やすとともに研修及び拠点病院間で共有できる資料の作成を行う。そして、平成27年度からは、ホスピス・透析の診療科の連携についての整理を行い、協力医療機関への研修等の人材育成を行う。

目的

HIV感染者及びエイズ患者(以下「HIV感染者等」)においては、近年の抗HIV薬の進歩により予後が大きく改善され、多くの方は、地域において通常の生活を送っている。そうした中、HIV感染者等の歯科診療を拒む事例や、拒否されることを恐れて感染の事実を明らかにできないまま近くの医療機関を受診したり、遠距離のエイズ治療拠点病院を受診している等、HIV感染者等の日常の診療において課題がある。

そのため、HIVに特異的な症状ではない診療(歯科等)については、身近な地域の医療機関で安心して医療を受けられる体制が必要となっている。

そこで、平成27年度は、平成26年度に引き続き、歯科診療に関する診療連携体制を強化し、協力医療機関の数を増やすとともに研修及び拠点病院間で共有できる資料の作成を行う。そして、平成27年度からは、ホスピス・透析の診療科の連携についての整理を行い、協力医療機関への研修等の人材育成を行う。

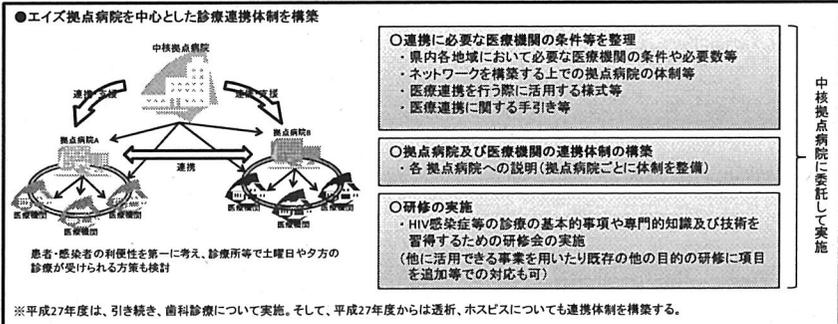
22

HIV感染者等

HIV以外の診療等

●現状 日常診療に関する診療連携体制が十分ではない。特に歯科診療の連携体制構築が急務。

対応

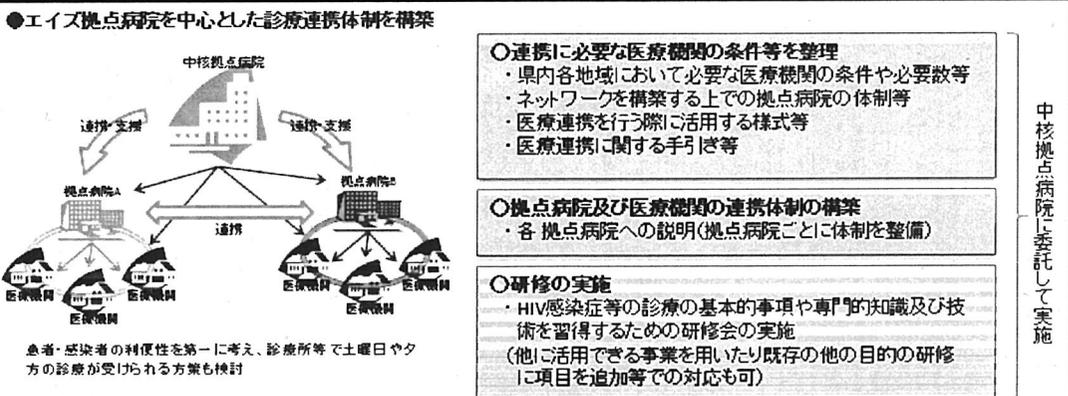


対応後は...

●拠点病院において、近医での診療を希望する患者に対し、紹介できる医療機関情報を提供。紹介先の医療機関を受診する際は、拠点病院で診療情報提供書を作成し送付。(間に合わない場合は、拠点病院から医療機関に連絡を入れる)

●現状 日常診療に関する診療連携体制が十分ではない。特に歯科診療の連携体制構築が急務。

対応



対応後は...

●拠点病院において、近医での診療を希望する患者に対し、紹介できる医療機関情報を提供。紹介先の医療機関を受診する際は、拠点病院で診療情報提供書を作成し送付。(間に合わない場合は、拠点病院から医療機関に連絡を入れる)

23

理想

身近な医療行為(看護、介護を含む)は身近で受けることができる。

感染防止については、スタンダードプリコーションであれば、どの医療機関でも診療できる。

その技術水準は、医事制度上、一般診療レベルで求められている(感染に対応できない、は、すべて「言い訳」である)。

現実の問題

実態として、日常的な疾病や状態に対する診療体制が確保されていない。診療(ケア)を確保しなければならない。

→ 高知県HIV陽性者歯科医療ネットワーク
透析、緩和ケア、介護etc...

これは始まりであって、終わりではない。

24

よくきかれる「おことわり」の理由

診療経験がない
専門診療に任せるべき

職員の技術水準(感染防止)に自信がない
職員の守秘に自信がない
職員を説得できない

何かあったら責任を問われる(医事紛争、労災)

少なくとも、表立って偏見的な理由をあげられることは少ないが...

25

過去から変わっていない? かもしれない問題

君子危うきに近寄らず、他人ごと意識、自業自得論
いろいろな差別と偏見、医療者が人を「裁く」...

一般県民の意識は?

比較的若い人たちは、HIV/AIDSを学校教育(思春期保健、人権教育)で習ってきたこともあり、話せばわかってくれるかも。

しかし、多くの医療機関が診療対象にしているのは高齢者層であり、意識の訂正は非常に難しい...のが実際である。

だが、一般県民の意識が変わらないと、日常的に対応する医療従事者の対応(経営者の気持ちとして「風評被害が怖い」もあり)を変えることは難しい...

それでも、関係者の地道な努力が実って、少しずつ変化...
例)肝炎:検査のPRができるようになった。

26

日本の健康長寿環境



7.28は日本肝炎デー

10月19日 9:30~15:00
いの町健康まつり すこやかセンター伊野
吾川邸いの町1400

肝炎ウイルス検査実施
先着150名様 **無料**

※高知県内在中で、今まで一度も検査を受けたことがない方が対象です。(年齢不明)

アンケートクイズにご記入の方
もれなく健康グッズが当たる
ガラガラ抽選
にチャレンジできます!

※商品がなくなり次第、終了とさせていただきます。 先着400名様

**バルーンアート
プレゼント**

※数に限りがございます。なくなり次第、終了とさせていただきます。

27

針刺し 事故発生



被曝者への基本対応

- ①2時間以内に
 - ・予防薬の服用について医師から説明を受け、服用するか被曝者自身がきめる。
 - ・医師(HIV専門医以外でも可)の処方を受ける(1~3日分)。
 - ・予防薬を被曝者が服用。
- ②24時間以内に
 - ・患者のHIV検査結果を確認(予防内服継続の確認)。
 - ・HIV専門医等の診療を受け、予防薬の処方を受ける。
 - ・服用期間終了後に、感染の有無を確認。→感染していれば患者として治療。

患者への基本対応

- ①暴露時
 - ・被曝者以外の職員から状況を説明。
 - ・HIV感染の有無が分からない場合は、検査を受けてもらうよう説得。
 - ・検査の実施。
 - ・感染していた場合は、治療につなげる(拠点病院に紹介)

・拠点病院だと、被曝者、患者ともに上記内容ですぐに対応
拠点病院以外だと

- ・患者が拠点病院に一緒に行ってくれた場合、上記内容で対応
- ・一緒に行ってくれない場合、予防薬を最後まで服用

※患者が感染していることが事前にわかっている場合は予防薬を最後まで服用

分包化には薬事法の壁



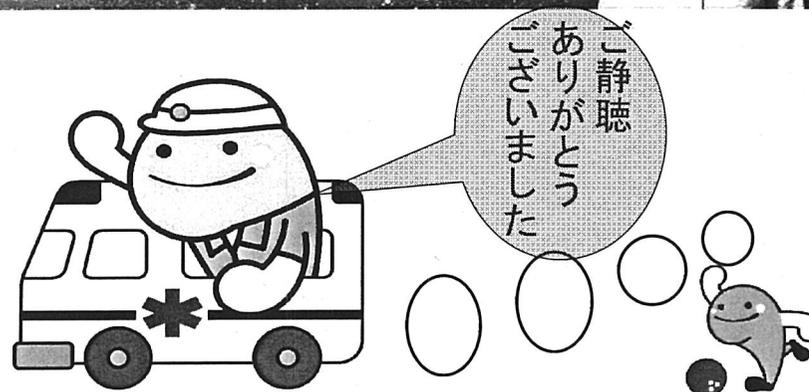
薬事法

28

謝辞

2014年、この歯科診療拒否問題が報道されて以降、
歯科診療確保、医療連携に対して取り組むべき方向や、
具体的な事例の情報など、多岐にわたり貴重なご示唆を
くださいました 広島文化学園大学 高田 昇先生に深く感謝
します。

また、報告の機会を与えてくださいました広島県健康
対策課、中四国エイズセンター、ご指導ご助言を
いただきました高知大学ほか高知県内外の関係各位に
深謝申し上げます。



高知家



県内診療所

HIV 歯科治療拒否

陽性者に「外に知れる」

県内で暮らすエイズウイルス(HIV)陽性者が昨年、歯科診療所で受診した際に感染の事実を告げたところ、歯科医師からその後の診療を断られていたことが関係者への取材で分かった。歯科で標準とされる感染症対策を行ってれば、一般診療所でも陽性者やエイズ患者を安全に治療で

きるが、医療側の知識不足や偏見などから断るケースが全国的に相次いでいる。県内のエイズ治療の中核を担う高知大学医学部付属病院によると、県内での診療拒否は「把握している限り初めて」。あくまで「あつてはならないこと」とし、歯科医師らに対応を呼び掛けている。(29面に関連記事)

この陽性者は数年前に感染が分かり、同大病院に通院。現在は薬が効き、「感染前と同じように働いている」という。ウイルスの状態が落ち着いた昨秋、感染が分かる前からかかりつけてきた歯科診療所で初めて受診。歯科医師に感染していることを明かした。

すると、歯科医師は簡単な処置の後、その場で「(ここで治療を続ける)外に知れる可能性がある」ので、次からは医大(高知大)で治療を受けてください」と告げた。歯科医師は症状を尋ねたり、同大病院に問い合わせることはなく、この陽性者は偏見による門前払いのように感じたとい

いう。HIVの感染経路は性行為による感染、血液を介した感染、妊娠・出産・母乳による母子感染の三つ。歯科診療では針刺しなどによる血液感染の可能性があるが、同大病院は「肝炎患者への対策と同様に診療器具の交換や消毒、手袋の使用など標準の感染症対策を行えば、どの歯科医療

機関でも治療できる」とが既に分かっている。陽性者から相談を受けた同大病院は、「診療拒否の背景には知識不足や偏見があると言わざるを得ない」とする。県内では現在40人余りの陽性者や患者が暮らしている。実際、プライバシー保護への不安や診療拒否を恐れ、多くが同大病院での歯科治療を選択。遠方に住む人にとっては大き

な負担になっている。陽性者から相談を受けた同大病院は、この歯科医師に感染症対策を説明し、プライバシー保護を要請。1月には県歯科医師会主催の講習会で講演し、歯科医師ら約30人に対策を呼び掛けた。同大病院は「今後も正しい知識を普及させていく」としている。(門田朋三)

エイズ「後天性免疫不全症候群」のこと。HIVに感染後、体の抵抗力が落ちることから「日和見感染症」などを発症すると、エイズと診断される。有効な治療法がなかった1980年代前後は「死の病」とされたが、現在はウイルスをコントロールする薬を飲み続ければ、健常者とほぼ変わらない生活を送れるようになっている。国内で新たに報告される陽性者、患者は年間1500人前後。県内では5人前後で現在40人余りが生活。高知大学医学部付属病院は「検査を受けず、感染に気付かないまま生活している人もいるだろう」としている。



わらない生活を送れるようになっている。国内で新たに報告される陽性者、患者は年間1500人前後。県内では5人前後で現在40人余りが生活。高知大学医学部付属病院は「検査を受けず、感染に気付かないまま生活している人もいるだろう」としている。

HIV感染治療拒否

偏見・情報不足が背景

県内の歯科診療所

県内に住むエイズウイルス(HIV)感染者が、感染を理由に歯の治療を拒否されていたことが分かった。医師らの偏見や情報不足が背景にあるとして、エイズ治療の中核拠点となっている高知大学医学部付属病院が適正な対応を呼びかけている。

高知大医学部病院 「適正な対応を」

付属病院によると、この感染者は昨年10月、かかりつけだった歯科診療所でHIVに感染していることを伝えた。すると、歯科医師は「治療していることが外に知られる可能性があるのでは」と話し、以後の治療を拒否したという。この感染者は現在、付属病院で治療を受けている。

トワークを作り、情報を共有していくという。厚生労働省のエイズ動向委員会によると、県内のエイズ患者は16人、発症していないHIV感染者は30人

4割「患者受けない」

エイズ患者やHIV感染者の治療を拒否する動きは全国でも問題になって

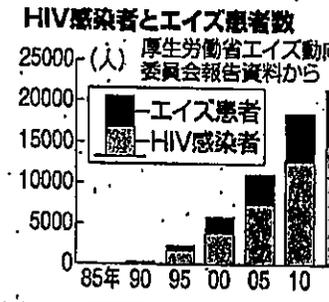
感染を告知しない患者も少なくない。同じ研究班の患者調査報告(2008年)によると、感染が判明した後に歯科治療を受けた61

事象を受けて付属病院は

県歯科医師会に対応を要請。今年1月に同会主催の講習会で感染症の予防策を

厚生労働省の研究班が歯科医982人を対象に実施したアンケート(2005年)によると、回答した306施設のうち、約4割にあたる125施設が「HIV感染者の紹介患者を受けない」と答えた。理由は「感染予防策に自信がない」が最多で31%、「他の患者に不安、動揺を与える」が26%と続いた。

高知大学医学部付属病院の山本哲也・歯科口腔外科長は「感染の事実を告知しないのは患者、医療機関双方にとって損失。出血があった時の対応が遅れ、診療リスクを高める」と話す。



一方、診療拒否を恐れたという理由から、

厚生労働省はエイズ治療の受け皿を確実に作る

と、各都道府県に拠点病院を設けている。

現在は全国に3000の拠点病院と59の中核拠点病院があり、県内では高知医療センターなど4つが拠点病院に、高知大学医学部付属病院が中核拠点病院に指定されている。

厚生労働省の疾病対策課の北原加奈子課長補佐は「HIVは怖い病気なのにイメージがまだあり、理解が進んでいない。エイズは今でも増え続けているので検査体制や情報発信に力を入れたい」と話す。

(西村奈緒美)